授業改善推進プラン

教科（　社会科　）　学年（　1学年　）

学力調査・アンケート等の課題分析

文京区の学力調査結果によると、在籍35名のうち、達成率が90%を超える生徒は1名で、達成率50%を下回る生徒が11名である。さらに、「基礎」内容の達成率が50%以下の生徒が9名いる。「思考・判断・表現」も苦手とする生徒が多い。これらの結果から、学力の定着に課題のある生徒がおり、とりわけ表現力を問う問題を苦手とする生徒が多い。また、同調査によれば、社会科の関心意欲態度を問う問題の正答率が50%を下回っている。

授業等の課題分析

歴史の授業では、歴史的事象に対して前向きな姿勢や発言が度々みられる。歴史マンガやゲーム、自宅の書籍等で歴史的人物や事象に親しんでいる生徒も複数おり、意欲的に授業に参加する生徒が多い。ワークシートに考えを記入する問題では、自分の考え（感想や疑問等）を記述することはできるが、資料を根拠として歴史的事象を説明することは得意ではない生徒もいる。定期的に小テストを実施したところ、小テストへの意識が高く、念入りに準備に取り組む姿が見られる。

目指す授業

対話的な学びを通して思考を深め、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う。社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力をつける。

授業改善のための具体的な方策

表現力をはじめとした学力をバランスよく向上させるため、以下のような取組を行う。

・授業の内容を「今日は～についてわかった。」などと自分の言葉で説明することができるようにする。
　そのために、キーワードを意識しながら授業に参加させ、自力でまとめる機会を多く設定する。
・画像や映像などの資料を活用し、さまざまな視点から生徒が関心を広げることができるようにする。
・教科書の表記を参考にしながら答える練習等をさせ、読解力・表現力の向上を図る。
・小テストを実施して復習の機会を増やす。

授業改善推進プラン

教科（　社会科　）　　学年（　２学年　）

学力調査・アンケート等の課題分析

第１回定期考査では、在籍 21 名のうち 6 名が 90 点以上である一方で、10 名が 50 点以下である。考査の難易度は標準的なものであり、学習内容の定着度や理解度が二極化していると考えられる。また、１年次の授業アンケートでは 100％の生徒が「わかった、できた、と感じる機会がありわかりやすい」という問いに肯定的（「当てはまる」「まあまあ当てはまる」）に回答していたが、今年度のアンケート結果では２名が「あまり当てはまらない」、１名が「当てはまらない」と回答した。

授業等の課題分析

1 学期は感染症対策のためグループ活動やペアワークの機会を少なくした。これにより個人活動の割合が多くなると、意欲のある生徒は非常に作業が早く理解度も良好だが、生徒の中には授業内の学習についていくのが難しい様子もみられた。範囲を限定して得点しやすくした小テストを実施したところ、学級内で得点の差が著しい。また、授業内における発言の機会を平等にするために、くじで無作為に指名する試みの結果、全体的に心構えや回答の準備が以前よりも整ってきた。

目指す授業

対話的な学びを通して思考を深め、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う。社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力をつける。

授業改善のための具体的な方策

学級内で学習内容定着度が二極化していることから、定着度の高い生徒が学力を向上させるため、定着度の低い生徒が徐々にレベルを上げるため、以下の取組を実施する。

・授業内容を自分の言葉で説明したり、授業の最後に学習をふりかえったりする場面をより多く設定し、重要語句やポイントを生徒が自ら確認できるようにする。

・教科書に掲載されている資料を使ってワークシートにまとめなおす作業などを取り入れ、資料活用の技能を高めるとともに知識理解の定着を図る。

・基本的内容の小テストを実施し、やればできるという自信をもたせるとともに、知識・理解を定着させる。

授業改善推進プラン

教科（　　社会科　　）　　学年（　　３学年　　）

学力調査・アンケート等の課題分析

授業アンケートの結果から、社会の授業は「わかった、できた、と感じる機会があり、分かりやすい」という問いに対し、１名の生徒が否定的（「あまり当てはまらない」）回答をしている。また、「生徒の間で学び合う活動を通して、他人の考えを取り入れ、自分の考えを広げたりすることができている」という問いに対し、１名の生徒が否定的（「あまり当てはまらない」）回答をしている。

授業等の課題分析

休校や感染症対策の影響で、例年のようなグループ解決の実施が難しかったが、個人解決の時間や、記述・発表の機会を充実させることで、思考力や表現力が身に付いてきている。その結果、100％の生徒が授業アンケートにおいて「自分の考えを書いたり発表したりする機会を与えられている」と回答した。今後はさらに多面的・多角的な考察の視点を身に付けるとともに、基礎的な知識や理解の定着を図り、問題解決力を向上させることが課題である。

目指す授業

対話的な学びを通して思考を深め、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う。社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力をつける。

授業改善のための具体的な方策

以下の方策により、全ての生徒が「わかった、できたと感じる機会がありわかりやすい」授業・「学び合う活動を通して自分の考えを広げることができる」授業を目指す。

・自分の考えをまとめ、論述する機会を増やす。（話すこと、書くこと。）
・日々の暮らしや身近な生活や自己の将来につながるテーマを授業で多く取り上げ、考える機会を設定する。
・学び合いの土台としての基礎的な知識や理解の向上を図るため、授業内の振り返りや復習を充実させる。
・小テストを実施して復習の機会を増やす。